

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

大塚だからできる！大塚は夢をかなえる！大塚からはばたけ！
～大塚は社会的自立、社会貢献のできる生徒を育てます～

<共通>

- ・生徒の第一希望をかなえる進学にも就職にも強い学校

<普通科>

- ・多様な生徒の幅広い教育ニーズに応え、地域に根ざした学校

<体育科>

- ・競技力の向上と府民のスポーツの振興、発展の拠点校としての学校

2 中期的目標

1 確かな学力の向上

(1) 新学習指導要領を踏まえ、生徒のニーズに応えた教育課程を編成して学習指導の充実を図る。

ア TT、少人数展開・習熟度別・ICT活用、選択科目の充実等を図り、生徒が満足できる授業を展開する。

イ モーニングタイムの活用や短期集中講座の実施により基礎基本を継続的にサポートする。

(2) 授業改善に積極的に取り組み、教員の授業力向上を図る。

ア 校内研究授業期間を設け、教員相互の自主的な授業観察、授業評価を行う。

イ 生徒による授業評価、授業参観での保護者の授業評価を積極的に行う。

ウ 高校間連携（近隣高校）による研究授業を推進する。

※ 卒業アンケートで「3年間勉学に一生懸命取り組めた」と答える生徒（過去平均74%）、「大塚で3年間学んで学力面で伸びた」と答える生徒（過去平均66%）をそれぞれH27年度には80%とする。

2 志や夢のはぐくみ

(1) 生徒が自分の意志と責任で進路を選択できるようにガイダンス機能（的確な情報提供・進路HR・進路相談）の充実を図る。

※ 進路面で「第1希望をかなえることができた」と答える生徒（H22：62.3% H23：65.7%）をH27年度には70%とする。

(2) 大学等の進学情報を収集・提供するとともに、大学見学会やオープンキャンパス等に生徒・保護者が積極的に参加できる機会を設ける。

(3) 3年間見通した継続的、系統的な進路講習を整備し全校的に計画的に実施する。

※ 大学進学率（H24：42.9%）をH27年度には55%、センター試験受験者（H24：40名）を40名以上めざす。

(4) 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を活用し、生徒のニーズに応じた就職支援を推進する。

※ 就職内定率を95%（H24：92.9%）とする。

3 豊かな心と社会性の育成

(1) 「あたりまえのこと（挨拶・時間厳守・ルールやマナーの遵守）をあたりまえに」を合言葉に規律規範の確立に努める。

ア 生徒全員が明るく大きな声であいさつのできる学校を維持、発展させる。

※ 遅刻総数（教務遅刻）（H24：977件）を、今後も1,000件以内を維持する。

イ 教育相談体制を整備・充実し、生徒たちの心のケアに努め、安心して安全に通える学校を確立する。

ウ 生徒を把握し保護者との緊密な連携を図るため、すべての担任はクラスの全生徒について保護者との三者面談を1学期中に行う。

エ 保健部、人権委員会、学年が連携したケース会議を定期的（毎月一回）に開催する。

オ 学校行事（大塚祭）の充実及び部活動の充実を図る。

※ 普通科生徒の部活動への参加を積極的に推進し、部活動加入率をH27年度には70%以上とする。

4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進（開かれた学校づくり）

(1) 活発な部活動と体育科の専門性を活かし、広く府民の体育・スポーツの振興発展を目標に、地元小学校や中学校を中心としたスポーツ交流やボランティア活動を推進する。

ア 「ふれあい大塚スポーツ教室」を松原市の小学生を対象に実施する。

イ 地元中学校の運動部との連携と交流を促進する。

(2) 松原市におけるスポーツ関連事業等に積極的に参加し、地域交流・地域貢献を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 23 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>「大塚高校を選んでよかった」については、生徒の肯定値(%)は体育科で特に高く3年生で93.1(前年度91.1。()内以下同じ)、2年生で88.4(78.8)、1年生で76.1(72.0)となっている。普通科でも3年生65.4(65.4)、2年生61.6(52.6)、1年生68.4(49.5)となっており、いずれも前年度並みまたは前年度比で大きく伸長している。</p> <p>「授業は工夫されていてわかりやすい」については、生徒の肯定値は体育科では3年生66.1(63.2)、2年生61.8(62.5)、1年生41.7(48.0)と3年生以外は下がっているが、普通科では3年生42.0(34.8)、2年生41.0(38.2)、1年生28.1(49.3)と伸長している。</p> <p>「校則や決まりは適切だと思う」については、生徒の肯定値が、体育科では3年生97.2、2年生97.1、1年生97.4、普通科で3年生88.1、2年生88.4、1年生89.1と、いずれも高い値を示しており、規律指導が生徒に浸透していると考えられる。</p> <p>「授業や部活動を通じて小学校や中学校、地域の方々と交流する機会がある」については、体育科では3年生63.9、2年生68.1、1年生57.3であるのに対し、普通科では3年生27.7、2年生33.9、1年生31.6と低く、運動部活動を通じての交流活動は行われているものの、全体には周知されていない結果ととらえることができる。</p> <p>また、保護者の意見からは、「子どもが大塚高校を選んでよかった」が体育科では平均で92.6、普通科では85.0といずれも高い値を示し、学校の教育活動について受け容れられているといえる。</p>	<p>第1回（平成25年6月27日開催）</p> <p>○H25 学校経営計画等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や交通マナーを守れる規範意識の高い生徒の育成に今後も期待している。 ・「ふれあい大塚スポーツ教室」のみならず、高校生と地元の小学生が直接ふれあうことのできる機会を増やしてはどうか。 ・競技力向上や事故防止のための予算獲得に努力されたい。 ・教員同士の連携の強い学校として誇りと自信をもって教育活動に専念してほしい。 ・「ピアサポート（同じような課題に直面する人同士が互いに支えあう）」の感覚で教員と生徒が一体になって学校づくりに努力していくべき。 <p>第2回（平成25年11月27日開催）</p> <p>○授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が記入する量が多いが、しっかり記入できているのか不明である。 ・授業力に課題のある教員のレベルアップが目的であるが、一括りの手法で評価することに無理はないのか。 ・大学においても実施しているが、見直しの方向である。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピックの開催が決まり、今後は国際化に向けた取組が重要である。 ・来年度からの学区撤廃に向け、中学校訪問や説明会の機会を増やしたが、引き続き広報活動に工夫をする必要がある。 <p>第3回（平成26年2月18日開催）</p> <p>○H25 学校教育自己診断結果等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診断結果を教育実践の場面にどのように反映させていくかが課題ではないか。 ・地域との交流機会が少ないという結果について、地域ボランティアなどを検討してはどうか。 <p>○学校教育計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京オリンピック開催に向け、オリンピックムーブメントの取組を進めてはどうか。 ・地域連携において、ふれあいスポーツ教室の出前開催を検討してほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の向上	授業力向上の取組みと生徒の学習意欲を高める取組みの充実 ア ICT を活用した授業の推進 イ 授業研究の推進 ウ 学習意欲の向上	ア・すべての教科で ICT を活用した研究授業を実施する。 イ・学習指導部の取組みとして、研究授業期間を1・2学期に設定し、すべての教科で研究授業を実施する。 ・授業アンケートの結果を授業力向上委員会において分析することにより各教員の授業改善を進める。 ・第7地区の高校の初任者を中心に授業交流会を実施する。 ウ・モーニングタイムの有効活用を図る。 ・成績不振者を対象にした短期集中講座を実施する。 ・3年生を対象に勉強合宿を実施する。 ・生徒の進路意識を向上させる。	ア・研究授業期間にすべての教科で ICT 活用の研究授業を少なくとも1回実施する。 イ・研究授業期間中、全教員による2名以上の助言の作成と、授業改善案の作成を行う。 ・授業アンケートにおいて、各教科とも「授業はわかりやすい」という生徒の肯定的回答を75%以上とする。 ・第7地区授業交流会を他の学校と調整し、年3回実施する。 ウ・短期集中講座を各学期ごとに実施する。 ・20名以上参加の勉強合宿を実施する。 ・学校教育自己診断において「意欲的に取り組んでいる」という肯定的回答を普通科75% (H24: 74%) 以上、体育科90% (H24: 86%) とする。	ア・7教科、延べ13名の教員が ICT を活用した授業を行っており、次年度は全教科において活用者も増加しながら、魅力ある授業づくりに取り組みたい。(○) イ・年間2回の研究授業期間中に教員相互の見学を延べ75名(62%)が行い、授業改善メモを作成したが、次年度は100%に近づけるよう働きかけを行いたい。(△) ・授業アンケートにおける「授業内容に興味関心を持つことができた」(生徒意識)について、1回目が2.94/4.0、2回目が2.90/4.0であり、次年度は3.0/4.0以上をめざす。(○) ・第7地区授業交流会を実施したが、開催及び参加については自校での授業や業務があるため参加率は低かった。(△) ウ・短期集中講座は各学期ごとに実施できたが、勉強合宿については施設等の調整がつかず、次年度に向けた検討課題とした。(△) ・学校教育自己診断における「意欲的に取り組んでいる」の肯定率が59%であった。(△)
2 志や夢のはぐくみ	将来の夢の実現に向けた取組みの充実 ア 進学講習の推進 イ 進学支援の充実 ウ キャリア教育の推進	ア・教育産業等と連携した土曜進学講習を計画実施する。 イ・進路別授業・演習を2年次より実施する。 ・生徒の大学見学会を複数回設けるとともに教員の進学情報の収集に努める。 ウ・「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業によるキャリアカウンセラー及び就職支援コーディネーターと進路指導部との連携を深め、キャリア教育についての現状把握と改善策、今後の方向性を確立する。	ア・土曜進学講習を、春・夏・冬期に各20名以上の参加で実施する。 イ・2年生の進学希望者全員に大学見学会等に参加させる。 ・センター試験受験者40名(H24: 40名)を維持する。 ・大学進学率50%(H24: 42.9%)以上とする。 ・「第1希望をかなえることができた」と回答した卒業生を65%(H24: 57.8%)とする。 ウ・就職内定率を5ポイントアップさせる。普通科70%(H24: 66.3%)体育科85%(H24: 79.4%)	ア・土曜進学講習を地元教育産業と連携し、実施したが、延べ32名の参加であり、今後の見直しと働きかけの強化が必要である。(△) イ・1、2年生全員に大学・企業見学会に参加させた(12月実施)。(◎) ・センター試験受験者は29名であり、入学当初からの意識付けが必要である。(△) ・大学進学率が35.6%であり、早い時期からの仕掛けが必要である。(△) ・「第1希望を叶えることができた」と回答する卒業生が85.3%であり、自己実現に向けた早期からの意識付けが必要である。(◎) ウ・就職希望者(26名)の内定率が100%であり、今後もキャリア教育の継続的、組織的取組の必要性を感じた。(◎)
3 豊かな心と社会性の育成	規律・規範意識の確立と部活動の活性化 ア 挨拶と時間厳守の徹底 イ 部活動の推進 ウ 教育相談体制の充実	ア・早朝立ち番指導(挨拶と自転車指導、遅刻指導)を継続徹底する。 イ・普通科生徒の部活動入部を促進する。 ウ・スクールカウンセラーを交えたケース会議を定期的(最低月1回)に開催する。	ア・遅刻者数1,000件以下を維持する。 イ・普通科部活動入部率60%(H24: 59.6%)全体70%(H24: 69.2%)以上とする。 ウ・学校教育自己診断で教育相談に対する肯定的回答を普通科40%(H24: 37.8%)体育科65%(H24: 62.3%)とする。	ア・遅刻者数が1251件であり、今後も現状の指導体制を継続していく。(○) イ・普通科入部率が63.2%、全体66.5%であり、次年度の入部率向上をめざす。(◎) ウ・教育相談に対する肯定的回答が44%であり、次年度の体制強化を図る必要がある。(○)
4 体育・スポーツの(開かれた学校づくり)の発展と地域交流の促進	競技力の向上とスポーツ拠点校としての取組みの強化 ア 競技力向上のためのスポーツ環境の整備 イ 地域スポーツの普及・振興 ウ 地域交流・地域貢献の推進 エ 学校広報の充実	ア・さらなる競技力向上にむけ、施設設備の有効活用と指導体制の充実を図る。 イ・地元小学生対象の「ふれあい大塚スポーツ教室」の充実発展及び地元中学校運動部との連携と交流を推進する。 ウ・地域交流としてスポーツ関連事業や市民文化活動、地域フェスタに積極的に参加して地域交流、地域貢献を進める。 エ・学校広報PTにより、学校説明会、中学校訪問、学校ホームページ等の充実を図る。	ア・外部施設の利用等も含め、施設設備の有効活用を行う。 イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」の種目増と120名以上の参加者を募るとともに、地元中学校運動部への訪問等(年間3回程度)を行う。 ウ・学校教育自己診断で、「地域と交流する機会がある」と回答する率を普通科35%(昨年30.6%)体育科75%(昨年70.3%)以上とする。 エ・学校説明会、中学校訪問を学区制撤廃に対応するため通学可能な地域(堺市北東部)や体育科と連動したエリアに拡充する。 ・学校ホームページの日・月別閲覧数の把握による効果検証を行う。	ア・グラウンドの狭小なことに起因するトラブルが多発している現状から、施設・設備の充実を計画的に進める必要がある。(△) イ・地元の2小学校から120名余の参加の元、サッカー、バレー、バスケの3種目において「ふれあい大塚スポーツ教室」を開催するとともに、3中学校主催の地域フェスタにダンス部が参加した。(◎) ウ・「地域と交流する機会がある」と回答した率が40%であり、さらに継続して地域連携を進めていく必要がある。(○) エ・年4回の学校説明会と保護者懇談の時期を利用した副担任による堺市北東部等の中学校訪問を実施し、広報に努めた。(◎) ・学校ホームページ閲覧数の把握を行った。(4月当初約33万3千件から1月20日現在37万5千件=4,200件/月)トップページのリニューアルを行うなど、掲載内容の充実も含めた学校PRに努めた。(○)